

# 阪神・淡路大震災を風化させない～震災20年企画ドラマを亀岡で撮影～ (11月12日、畑野町)

◀災害現場を再現したセットで懸命に演技をする京都中部広域消防組合の皆さん



昔ながらの風景や建物、町並みが随所に残る亀岡市では、時代劇や映画、ドラマなどの撮影が多く行われています。

今回、畑野町公民館と、同町の山あいにある災害救助犬の練習場を活用して、阪神・淡路大震災20年ドラマ「二十歳と一匹」(NHK大阪局制作)の撮影が行われました。ドラマは、阪神・淡路大震災で両親を失った幼い子どもが、青年となった20年後、「災害救助犬」のハンドラー(訓練士)を目指す物語です。

撮影当日は、畑野町の消防団や自治会役員のほか、京都中部広域消防組合や市職員などもエキストラとして参加。慣れない撮影に戸惑いながらも、懸命に演技をされていました。

このドラマは、1月17日(土)午後7時30分から、NHK総合で放送されます。ぜひ、ご覧ください。

## 美術館のあるまち亀岡について考える

(12月7日、大本本部みろく会館)



△みずのき美術館の魅力について語る登壇者

亀岡市にゆかりのある人物をテーマに昨年度まで開催した「先人に学ぶガレリアアフォーラム」の後継企画として、かつて先人が活躍した分野の現在にスポットを当てる「輝きフォーラム」を、亀岡の芸術を育ててきた宗教法人「大本」のみろく会館で開催しました。

記念すべき第1回は、「美術館のあるまちへ」と題して、

「オール・ブリュット(伝統的な美術教育を受けていない作り手による作品)」に出会える美術館として平成24年10月に開館した「みずのき美術館」とその活動を語り上げました。

登壇した同美術館の奥山理子さんは、「亀岡のことをもっともつと見つめていきたい」と思い、北町商店街に開館しました。

芸術を通じて亀岡のよさや魅力をたくさんの人に知っていただけよう発信し地域貢献することが、美術館の役割だと考えています」と語られました。

フォーラムに参加した田中佐知子さん(篠町)は、「みずのき美術館は展示の仕方なども工夫されています。何度でも訪れたくなる魅力のある美術館があるまちはいいですね」と話されていました。

## 日々の成果をここに!受講生の皆さんが主役!

(12月4日、ガレリアかめおか)



△歌に合わせて、銭太鼓を使った手踊りを披露

高齢者の皆さんが地域社会の一員であることを自覚し、自らの生きがいを目指すことを目的として年間7講座を開催している「高齢者さわやか教室」。第5講座となる今回は、65歳以上の受講生約300人が参加し、それぞれが得意な分野の舞台発表や作品展示を行う

今年度は舞台発表希望者が大幅に増え、コーラス、こま回し、詩吟、舞踊や三味線など、趣向を凝らした発表が行われ、会場は大いに盛り上がりました。

大井町から参加した女性(84歳)は、「さわやか教室は、同じ目標を持った仲間と毎回歌や体操、学習を通して交流できるので、楽しみにしています。今回は、以前から取り組んでいる工芸盆栽を作り、展示の部に出しました。花びらは布を染色し、茎にはワイヤーを使います。私の6つ目の作品です。孫が6人いるので、一人ずつにプレゼントしています。喜んでくれるのがとてもうれしいです」と笑顔で話されていました。

## 遊・You・かめおか ~1月のイベント情報~

### 亀岡市消防出初式

**1月11日(日)午前9時~11時30分**  
「火災ゼロ」への決意を新たにするため、亀岡市消防出初式を行います。

- 内容 式典(亀岡小学校体育館) パレード(市道紺屋停車場線) 一斉放水(南郷公園)
- 問い合わせ 自治防災課 消防係 ☎22-0119



市中パレードの様子(平成26年)

### 亀岡生涯学習市民大学第7講座

「世界中で住民と共に道直し」

**1月10日(土)午後1時30分~3時30分 入場無料**

木村亮さん(京都大学大学院工学研究科教授)により、発展途上国の現地の人々にとって何が必要であるかを現地で調べ、土木工学者として簡便で分かりやすい方法を用いて、人々の暮らしを豊かにする道直しの活動を紹介します。

- ところ ガレリアかめおか
- 問い合わせ (公財)生涯学習かめおか財団 ☎29-2700



△木村亮さん

## おいしい亀岡牛を届けたい

(12月14日、亀岡市食肉センター [三宅町])



△牛舎で市長賞のトロフィーを手にする原田さん(右)と石田さん(左)

亀岡牛の肉牛生産者の皆さんの生産意欲を高め、飼育・管理・技術の向上を図る「平成26年度枝肉共励会」が開催されました。

亀岡牛になる子牛は九州などからやってきて、きれいな水と空気のある亀岡の良い環境の中で、高い技術で育てられています。近畿東海北陸地方の優良な牛が100頭も集まる大会で最優秀に輝いたこともあり、

亀岡牛は、その品質の高さが認められている亀岡の特産品です。本市では毎年12月に、枝肉の質を競う共励会が開催されており、本年も出品された黒毛和種35頭が審査を受けました。最優秀となる亀岡市長賞を受賞された原田雅之さん(西別院町)は、「約200頭いる牛の毎日の世話は大変で難しいですが、おいしい亀岡牛を皆さんに届けたいと思います。大事に育てています」と話されました。一緒に飼育に取り組み石田直弥さん(大井町)は、「40年以上続けてきた原田さんの技術を伝えてもらいながら頑張っています」と話されました。

出品された亀岡牛はすべて市にかけられ、市内でも購入することができます。ぜひ、ご興味ください。

## 広報クイズ

はがきにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、広報紙「キラリ☆亀岡」の感想を書いて、〒621-8501(住所不要)市秘書広報課へ。  
正解者の中から抽選で5人に図書カードを差し上げます。当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

【前月の答え】  
「ありがたいところ」でした。たくさんのおはがき、ありがとうございました。

◎◎周年に当たる記念の年です。◎◎に入る数字は何でしょう。

ヒントは、広報紙の中にあります。

締切日 平成27年 1月30日(金) (必着)



明智がめまる

●ハイ!広報広聴係です●  
新年あけましておめでとございます。亀岡市は今年、市制施行60周年の慶賀の年を迎えます。

昨年まで亀岡の元日の恒例行事となっていた「元日ロードレース」は、今年12月に「第1回京都亀岡ハーフマラソン」として生まれ変わります。この大会は、市制施行60周年の記念事業として本市のにぎわいのあるまちづくりを目的に開催されます。

現在、亀岡運動公園球技場とメモリアルゲートブリッジには、このハーフマラソンをヒーアールするため横断幕が掲出されています。

皆さん、約1年後のこの大会を楽しみにしてください!

昨年4月に広報へ所属になり、亀岡の様々な行事や式典取材し、日々新たな「発見」がありました。今年も皆さんに多くの「発見」をお伝えできるよう頑張ります。今年もよろしくお願いたします。

(川端)